法人内交換取材 第四弾

第四回目の法人内交換取材は、南ブロックのもいわサポートセンター横井淳と第2この実豪川崎亮子が西ブロックのこの実支援センターへ取材に行きました。

決して忘れてはならない！
ここは私達、『この実』の原点です

この実支援センター

はじめに

これまで、この実支援センターと聞くと、記念旅行の待ち合わせ場所の際や、行事等でトラックやテントを借りる時にお世話になった程度の思い出しかありませんでした。この場所が札幌この実会の原点であり、すべてのはじまりであることを知っていながら、なかなか訪問や実習の機会がなかったのですが、今回の取材でお忙しい中、中島さん・遠谷さんが歴史的背景や事業内容についてとても丁寧にご説明して下さいました。資料室や日中活動の現場、グループホームを見学させて頂く中で、この実支援センターでは、入所を廃止した今でも、日中活動では個人個人の能力を生かせるように、生活の場ではもっと豪生さんが快適に過ごせるようにと試行錯誤しながら、また課題と向き合いながら日々努力されていることがわかってきました。

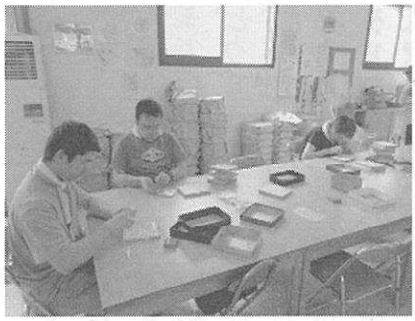
この実わーくネット

この実支援センターの仕事の始まりは、定員三十名からスタートした「手稲この実豪」と呼ばれた時代に体力作りや経験、体験を重ねる為、昭和四十九年五月から保護者の助言により、平和園へ試験的に石拾いなどの奉仕作業を行ったことでした。このことが、その後の平岸霊園、宮丘公園、旧設基地算の清掃管理活動へと繋がっていきました。経験を積むことで実を結び、就職へつなげていきました。平成三年には自分たちで地域に返すことがないかと独居老人除雪を始めました。現在も形を変えながら継続しています。

この実わーくネットは、二十二歳から七十一歳までの幅広い年齢層の方がそれぞれの作業班に所属する日中活動の総称で、現在五十一名の方が活躍されています。

下請け班のパック作業所内は広々として整理整頓もきちんとされ、気持ち良く作業も捗りそうな印象でした。以前は、土建屋さんの資材置場だったとの話も頷けます。古くからこの実会とお付合いのある日本仮設さんから依頼された作業に取組んでいました。治具を用いて釘の本数を数え、その釘を再度検品して袋詰めを行います。

日本仮設さんは、更に資材を作業所まで届けて下さっており、安全面等を考慮して頂いていることに感銘を受けました。



クリーンサービスは、ケアホーム969やサテライト2・6、支援センター、サポートステーションを清掃しているチームで各清掃

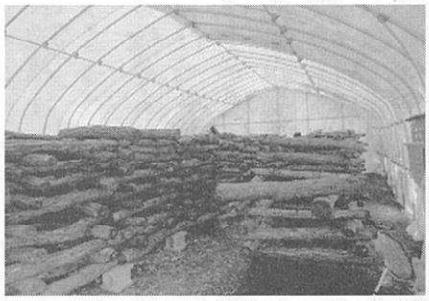
場所に偏りなく誰でも色んな場所に対応できるようになっています。昔から訓練を受けており、掃除が得意で「ありがとう」と言われる事がやる気に繋がり、高齢でもまだまだ働きたいという方の作業場として重要な役割となっています。

創作班では、羊毛マスコット作りを行い、元気ションプいこーるに卸しています。更に、貼り絵や工作等の活動も行っており、これらの個人作品は全てアラカルアートに出展しており、作品の内容は個人にできることに合わせて職員も一緒に考えて完成させています。

フレンドパークには椎茸を栽培しているほだ場があります。ほだ場は建物に向かって右側の山林にありました。巨大なハウスが二張りに椎茸のほだ木が全部で七千本あり、療生さんが頑張って専用のプールにて浸水させた後にハウスまで運搬しています。体力のある療生さんが多く七十一歳になる方も活躍しており とても驚きました。

椎茸の収穫期は春と秋で、夏季の今時期はほだ木を休ませ、交流まつり等の大きな行事に合わせ収穫するスゴ技です。椎茸栽培についての知識は専門家の方がアドバイスしてくれており、平日に収穫された場合は朝市やサテライト2・6の前で、地域の方に安価にて提供しています。

地域では、お馴染みのおまかせ屋が草刈り、公園の清掃、個人宅の庭の手入れ、除雪等様々な仕事をこなしています。口コミで広がり今年度の契約数は一一〇件を超え、地域貢献の重要な場になっています。お客様への対応が身につけられるように声掛けと、準備から片付けまで責任を持って行えるようにと、その日のリーダーを決めて行っていて、どの事業所でも参考となると思います。



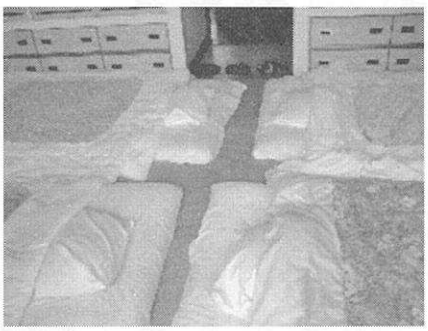
今年度の五月～六月に九名の方が日本仮設さんで実習し、その中の三名の方が八月から施設外就労に取り組むことになったそうです。職員一名が引率し、作業の見守りや点検を行い、日本仮設さんの職員とも作業量の調整確認等を行います。作業内容は足場の養生板の作成、コの字蝶番の組立て、取付け等を行う予定で、頑張っていただきたいと思います。

就労を目指すためには、ハローワークでの求職活動、合同面接会や説明会の参加、マナー講習や履歴書記入等が必要となりますが、やはり人との繋がり、人脈が大切であるとのことでした。

日中活動の課題は、魅力のある作業提供をできるかということ。これまで ラーメン店「みらくる」に続き、CAFE「いこっか」の運営に挑戦されていましたが、現在は閉鎖されていますので今後どうするかが課題となっています。また、高齢な方と若い方との作業ペースや内容の差がある為、多機能型への変更を視野に入れているとのこと。六十歳以上の方を対象に週に一度午後から休息したり、本人達の自由に過ごせる時間に充てており、始めは反応が心配でしたが、良い気分転換になっていて好評だそうです。また、月に一度フラブ活動もそれぞれ、習字や文字の練習、粘土や絵画、運動やダンスと三つに分かれて活動しているそうです。

この実らいふネット

わたしはここに何年
住めるだろう？

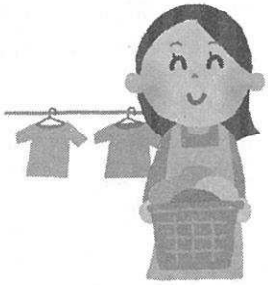


昭和四十八年一月「手稲この実寮」開設当初は一人部屋などなく、四人部屋がほとんどでした。かつての居室を利用した資料室には、実際に布団が敷かれており初めて見た時には足の踏み場がほぼ無いことに驚きました。

『親なき後も幸せに暮らしていけるように』『ごく普通の暮らし』より小さく家庭的に』それらを実現するために、昭和五十七年四月「さざ波寮」が開設され地域生活の第一歩、入所廃止の歩みが始まりました。その後、寮生一人一人から「山には、戻りたくない」「自分の部屋で暮らし続けたい」「コンビニが近くにある暮らしがいい」と寮生の声に耳を傾け平成二十年三月に入所施設が廃止されました。昭和五十七年「小さな波紋がさざ波のように広がることを願って」と『さざ波寮』に始まり、地域へとグループホームは広がっていきました。

昨年度サポートステーションとのグループホームの一元化を図り、昨年度末に「はみんぐ」を閉鎖、今年度は住居数十二ケ所、定員六十七名でスタート。地域での孤立孤独を防ぐために「行きたい場所、会いたい人」など外に向く気持ち、「私のことは私が選んで決めたい」「できないことは教えてもらって、自分でできるようになりたい」という暮らしを大切に、また私達と同じ大人、市民として、共に暮らしやすい地域づくりを目指しています。ほとんどのグループホームが歩いて行ける距離にあり、住み込み・宿直・巡回で対応して寮生一人一人に合わせたホームで生活できるよう支援しています。

町内夏祭りでは仮装大会へ参加したり、町内会ゴミ拾い等地域の行事には積極的に参加し、更には、町内会館の利用も行っています。



取材を終えて

今回の日中活動の取材を通して、もいわサポートセンターでも利用者さんの年齢や体力面に個人差がある為、作業内容や量の調整等の検討が必要であると感じました。また、就労を目指すために現状の支援に満足するのではなく、職員間との情報交換、何よりも利用者さんの声に耳を傾けながら、具体的な支援方法を見出し、利用者個々のフォローをできるように、日々取り組んで行きたいと思います。

（もいわサポートセンター　横井）

今回の取材では、この実支援センターの活動やグループホームでの様子を見学させて頂き、寮生一人ひとりがいきいきと過ごすことが出来るように職員も一人ひとりが深く考えているのだという事がとても伝わりました。日中活動や生活、高齢化に向けなど色々と課題はあるものの、今後一つひとつ考え実行していき、寮生一人ひとりがより良い時間を過ごしていけるよう日々努力を重ねていきたいと思います。

お忙しい中、快く取材に応じて頂きまして本当にありがとうございました。

（第2この実寮　川崎）

おくりものありがとう

平成二十八年四月
～平成二十八年六月

佐々木洋子
首藤内科
日本仮設
光塩短期大学
朔風
さんりんしゃ

（敬称略）

金一封

平成二十八年四月
～平成二十八年六月

佐々木洋子
この実親和会
アシストセンターちえりす

（敬称略）

支える会のお知らせ

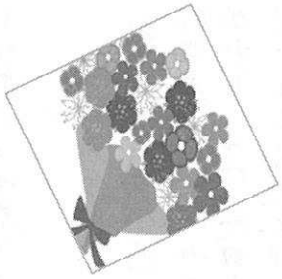
平成二十八年四月
～平成二十八年六月

会費収入　一八六、〇〇〇円
寄付金収入　一、〇〇〇円

会費納入者・寄付者

小原忠博
越戸昭仁
須田忠四郎
平田公一
鈴木和子
小山千津子
木村友代
川上公子
柴田康子
八木岩子
南久美子
小原トク子
越戸真希子
須田幸枝
鈴木信敬
鈴木寿和子
松田清彦
住友末子
鈴木清和
柴田麗
大和田正子
山上和子
野口賢治
安藤敏郎
早見紀子
鈴木信竟
並川輝美
木村昌次
川上一夫
柴田俊春
岩間勝廣
中村善文

（敬称略）



編集後記

前回に続いての座談会後編でしたが、いかがでしたでしょうか？できれば前編を斜め読みしてから後編に入ることをお勧めします。読めば読むほど奥の深い話が満載です。若い人の中には今はまだ実感がわかない人もいるかもしれませんが、福祉の道を進んでいくうちに、必ずこの対談の内容を実感として感じるのではないかと思います。

さて、今年の夏は暑い日が続きました。またリオオリンピックも熱い戦いが繰り広げられ、日本にたくさんのメダルをもたらしました。引き続きパラリンピックが開催されます。注目度は低いかもしれませんが、実は日本人が大活躍しています。こちらも是非注目して観てください。それでは皆様が暑い夏にも負けず健康で過ごされるよう祈りつつ編集後記といたします。

（この実だより編集委員　中村基子）

この実だより第二〇五号
編集者　加藤　孝
発行者　札幌この実会
住　所　〒〇六三－〇〇四九
札幌市西区西野九六九番地
発　行　平成二十八年九月一日